

はじめに

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）日本語国際センターは、海外における日本語教育を推進していますが、その一環として、海外での教材開発を念頭においた素材集の開発を行っております。2002年に発行した『中等教育向け初級日本語素材集・教科書を作ろう（改訂版）』もその一つであり、海外におけるノンネイティブ日本語教師が、中等教育段階の日本語学習者向けに教材を作成する際にご利用頂いております。この素材集の内容は、インターネット上のウェブサイト「みんなの教材サイト」(<https://www.kyozai.jp/go.jp/>)でも公開しています。

『児童・生徒のための日本語わいわい活動集』は、この『中等教育向け初級日本語素材集・教科書を作ろう（改訂版）』の「れんしゅう編」を参考に、多様化する児童生徒の日本語授業において利用できるよう作成された日本語活動集です。

国際交流基金の、『海外の日本語教育の現状－日本語教育機関調査・2003年(概要版)』によると、2003年現在、海外では、235万人あまりが日本語を学習し、その65%が初等・中等教育機関の学習者です。また、日本国内でも、2003年の日本語学習者数は13万5千人（2003年文化庁調査）であり、日本語指導が必要な外国人児童生徒は1万9千人（「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受け入れ状況等に関する調査(平成15年度)」2004年文部科学省発表）を超えています。

国境を越えた人々の交流は以前にも増して活発になり、日本語教育においても国境のない時代を迎えつつあります。日本において開発された日本語教材が海外において利用されるだけでなく、海外の日本語教育において培われた知識が国内においても活用され、それがまた海外における日本語教育の向上にもつながる時代となりました。この『児童・生徒のための日本語わいわい活動集』の制作が、そうした「ボーダーレス」の時代における日本語教育の向上に少しでもお役に立てることを祈っております。

『児童・生徒のための日本語わいわい活動集』を執筆するにあたり、多様化する児童生徒の日本語授業の状況を考えて、学習者が5人未満でも可能な活動を選び、日本人教師が読むことを想定して「れんしゅう編」の内容を書き換えました。しかし、日本語を学ぶ児童生徒の状況はさまざまであり、その授業形態や内容も一様ではないことも事実です。ここでご紹介した活動は一例に過ぎません。必要な場合は、ご担当の先生方がそれぞれの児童生徒に合わせて自由に工夫し、ご利用ください。また、この活動集が、生き生きとした楽しい授業のきっかけとなりますことを心より願っております。

執筆者一同

この教材の特徴

目標はコミュニケーション

児童・生徒が日本語の知識を得るだけでなく、日本語を使って、自分を表現したり、相手を理解したりするコミュニケーションの体験ができるように活動を考えました。

生徒同士、先生と生徒のコミュニケーション

先生が質問し、その内容に生徒が答えるという形だけでは真のコミュニケーションの体験はできません。できるだけ、生徒同士、先生と生徒が双方向的に日本語でコミュニケーションができる活動を取り入れました。

練習の種類の多様性

前半には A「語彙や文型の定着をはかるための活動」、後半には「総合的な活動」を掲載しました。一つひとつの活動ができるだけ楽しくできるようにゲームの要素を取り入れたり、聴解、読解、会話、作文などさまざまな技能を必要とする活動や実際のコミュニケーションに近い活動を取り入れたりしました。後半の B「総合的な活動」では特に、前半の A「語彙や文型の定着をはかるための活動」で学習したことが応用できるようになっています。

<ワークシート>などの表記について

本文中に練習や活動で使える<ワークシート>や<会話例>などがあります。これらは、そのまま生徒に見せることを想定して、表記に関して以下のように配慮しました。

・漢字の表記

小学校 6 年生までの教育漢字を使用し、すべて振り仮名をつけました。

・数字の表記

主に算用数字（1, 2, 3～）を使用しました。ただし、人数（一人、二人）と一つ～十は漢数字を使用しました。

<会話例>の文体や自然さについて

本文中の<会話例><インタビュー例><発表例>などは、基本的に丁寧体のものを載せましたが、後半の B「総合的な活動」では、場面に応じて普通体も使用しました。また、あいづちや言いよどみなどは、前半部分では語彙や文型の練習に集中できるよう、取り入れませんでした。後半の B「総合的な活動」では、適

宜取り入れました。

指導方針によっては、前半の A「語彙や文型の定着をはかるための活動」でも、普通体で友達同士の会話をさせたい場合もあると思います。ご担当の先生方で適宜お考えいただき、工夫してご使用ください。